

# 施業指標林

## ブナ地帯天然更新施業指標林

### 1 長棟施業指標林

富山営林署

#### 設定の目的

ブナ地帯の天然更新体系の改善を図るため、モデル施業体系指標林を設け、収穫から更新に至る個別方法の改善を図り、技術体系の検証、普及定着に供する。

場 所 富山県上新川郡大山町長棟国有林213林班ら小班

面 積 10.35ha

#### 施業等の概要

伐採前の林況は、ブナ、ナラ、トチ、その他L、材積128m<sup>3</sup>/ha、本数335本/haの天然林

昭和49年8月、伐前筋刈地拵え（2m刈払、2m残し）

昭和49年6月～昭和50年5月、胸高直径30cm以上のブナを、40本以上/ha、均等に残して伐採

#### 調査計画等

昭和53年7月、稚樹調査2プロット（刈払区・残巾区）を設定し、昭和59年まで毎年調査を行った。

その後は5年目の平成元年、以降3年目毎にブナ他有用広葉樹の稚樹発生調査を実行、更新の状況を調査している。

#### 地 況

標 高：900～1,100m 林地傾斜：30°

土壌型：B<sub>v</sub> 方 位：W

#### 林 況

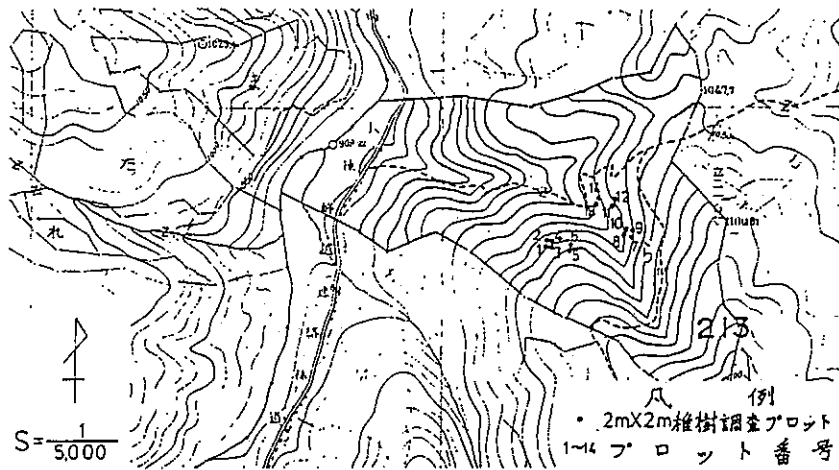
稚樹の成立本数は、ブナ及びその他有用広葉樹とも稚樹が淘汰され、多少減少傾向にあるものの平成元年9月調査時点では、ブナの樹高30cm以上が、27,700本/haと順調に生育している。

た30cm以上の稚樹は刈払区27.5千本、残し巾区で25.7千本で、これに有用広葉樹の8.2千本を合わせると平均34.8千本に達しており、更新完了基準を超えているので、今後本数調整等保育を適正に実施することで成林が期待できる。

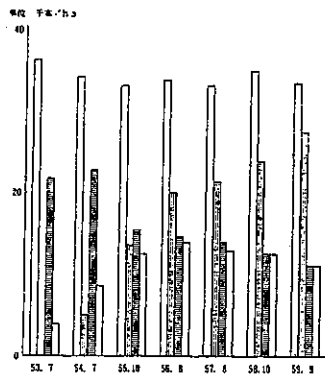
注：本数はすべてha当たり

ブナの天然林施業試験地位位置図

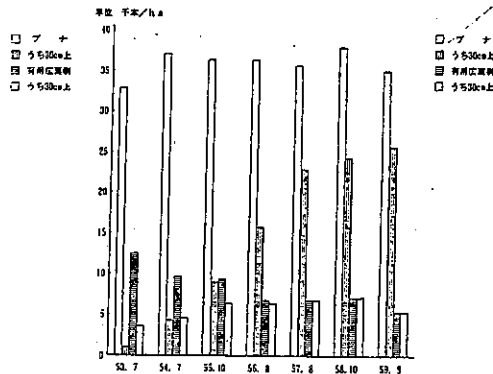
富山事業区長棟国有林 213林班ら小班



ブナ地帯稚樹の推移  
刈払区



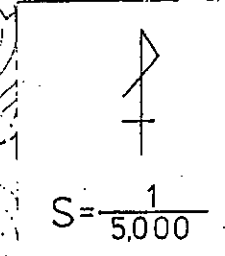
ブナ地帯稚樹の推移  
残幅区



214

# ブナの天然林施業試験地位置図

富山事業区長棟国有林213林班5小班



凡例  
 ・ 2mX2m 稚樹調査プロット  
 1~14 プロット番号

